

<b>Numbering code</b>	U-LAS06 10002 LJ41				
<b>Course title</b> <English>	法学 Jurisprudence	<b>Affiliated department, Job title, Name</b>	Graduate School of Global Environmental Studies Professor, USAMI MAKOTO		
<b>Group</b>	Humanities and Social Sciences	<b>Field(Classification)</b>	Jurisprudence, Politics and Economics(Foundations)		
<b>Language</b>	Japanese	<b>Old group</b>	Group A	<b>Number of credits</b>	2
<b>Number of weekly time blocks</b>	1	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Course offered year/period</b>	2019・Second semester
<b>Day/period</b>	Fri.3/Fri.4	<b>Target year</b>	All students	<b>Eligible students</b>	For all majors
<b>[Outline and Purpose of the Course]</b>					
<p>私たちの生活は、法制度に支えられて成り立っている。さまざまな法制度を深く理解し、正しく評価するためには、正義・自由・平等などの公共的価値に対する正確な理解が不可欠となる。本科目では、法学的観点から、公共的価値をめぐる重要な論点や学説を平易に概説する。</p> <p>本科目では、履修者数が極めて多数とならない限り、質疑・討論の時間をやや長めに確保する。履修者数が極めて多数に上る場合には、質疑・討論の時間を設けない。</p>					
<b>[Course Goals]</b>					
公共的価値に対する正確な法学的理解を習得し、自ら考察を深めることにより、法制度に関して、規範的な分析力・構想力を鍛錬することが、本科目の目的である。					
<b>[Course Schedule and Contents]</b>					
次の主題について授業を行う。					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論：法制度における公共的価値【1回】</li> <li>2. 福利：内容・区分・論争【2～3回】</li> <li>3. 正義：公正としての正義【2～3回】</li> <li>4. 自由：リバタリアニズム【2～3回】</li> <li>5. 平等：何の平等か、再分配目標【2～3回】</li> <li>6. 責任：選択と状況【1～2回】</li> </ol>					
<b>[Class requirement]</b>					
None					
<b>[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]</b>					
<p>履修者数が極めて多数とはならない場合          質疑・討論における各履修者の発言を、質・量の両面から厳密に評価して記録し、授業参加点を算出する。出席による加点はないが、欠席・遅刻は減点対象となる。</p> <p>授業参加点（50％）と授業期間中に実施する2回の小テスト（25％×2）の点数とを合計して、最終成績を確定する。</p> <p>履修者数が極めて多数に上る場合          授業期間中に実施する中間試験（50％）と期末試験（50％）の点数を合計して、最終成績を確定する。</p>					
----- 法学(2) -----					

## 法学(2)

### [Textbook]

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和 『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社）（2019年9月までに公刊予定）

### [Reference book, etc.]

#### （Reference book）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕 『法哲学』（有斐閣）ISBN:9784641125674

宇佐美誠 『その先の正義論』（武田ランダムハウスジャパン）ISBN:9784270006788

### [Regarding studies out of class (preparation and review)]

履修者数が極めて多数とはならない場合  
履修者は、十分な予習に基づく積極的な発言を期待される。

履修者数が極めて多数に上る場合  
履修者は、十分な予習を行うことを期待される。

### [Others (office hour, etc.)]

質疑・討論の時間が設けられる場合には、教室で自由に発言する楽しさを味わってほしい。

本科目は、同一曜日の2つの時限におおよそ同一の授業内容で開講されるが、授業内容の詳細が異なりうる。そのため、履修者は、履修登録したのとは別の時限に出席・受験しても採点されない。

第1回授業で、出席者数を勘案して授業方法を確定し、その詳細な説明を行うので、履修希望者は必ず出席すること。